

我が国の進むべき道は何か

—世界のニュー・レジームに貢献する信望国家日本の創造—

2014年 6月12日

地球産業文化懇談会

日本は今まさに将来にわたっての社会・経済のサステナビリティが問われている。

近代以降の日本の歴史を概観すれば、明治維新、西欧文明の導入、列強入り、第二次世界大戦の敗北、戦後の復興と高度成長、「Japan as No. 1」を経てバブル崩壊に至った。

そして現在、世界はグローバリズムという歴史上で新しい段階に入り、日本は「海図なき航海」が求められている。我が国の明治維新以降の約150年の歴史と経験を冷静に見つめ直しながら、従来の二番手指向・キャッチアップ指向から脱し、日本は自ら「海図」を模索しなければならない。

日本の抱える危機について、自ら勇気をもって前向きに取り組み、その成果を世界に提案していく志と勇気をもてば、日本がサステナブルな世界づくりに貢献するチャンスともなりうるのではないか。今後日本の描く「海図」は「世界が必要とする海図」でもあろう。「日本から世界を変える」、まさに今がその時でなければならない。

地球産業文化研究所の中に設置された地球産業文化懇談会において、地球規模・未来志向・学際的な視点とアプローチから議論を進めるべく、論点と今後の進め方の整理を行った。

## 1. 問題意識・論点

(1) 世界の現状は、グローバル化の進展の下、国家間での経済の相互依存が進む中で、グローバル経済と旧来の国家と言う枠組みとの間でせめぎ合いが生じている。その結果、様々なグローバル・リスクが急激に発生、台頭し、グローバル・ガバナンスの危機が訪れようとしている。

(2) 6つの大きなグローバル・リスク\*が顕著になろうとしているが、適切な対応は未だなされていない。

\* Governance Risks of the World, Security Risks, Market Risks, Energy and Resources Risks, Global Environmental Risks and Social Risks

(3) 一方、日本の現状は、人口減少・財政再建・グローバル競争に伴う産業空洞化・超高齢社会・縮小経済社会・イノベーション力の喪失の諸問題が言われ、中流層の崩壊・富裕層への富の集中・世代間格差が進行し、第二次世界大戦後の経済復興の達成を経て、制度疲労、構造疲労が一挙に深刻化している。

- (4) 本来自浄作用をもつべきはずの統治スキームは、選挙を意識した政治の populism や、シルバー民主主義の弊害が指摘される状況にあつて、必ずしも有効に機能していない。
- (5) 経済面でも、長期にわたって黒字であった経常収支が、近時、赤字に転落するなど、日本経済を支えていた重要なファクターが様々な面で劣化しつつある。それにもかかわらず、問題指摘はなされるものの、これまでの成功体験からか痛みを伴うような抜本的な対応はなされていない。
- (6) 国力低下の下では、実効ある国際的な発信もありえないのが世界の現実である。我が国も、米国・中国・日本の力関係の相対的变化が、国際関係に多大に影響していることに眼を背けず、その現実に真正面から向き合うべき時代になっている。

## 2. 我が国は今まさに何をなすべきか

- (1) 基本軸ないし進むべき方向性～日本オリジナルのグローバリゼーションとイノベーションを世界へ～
- ① 我が国の強みは、経済・社会が自然と共生しつつ発展することを大事にする知恵(自然の叡智)、信頼や寛容といった価値観、柔軟な発想力とイノベーション力を育み、社会で共有してきた長い歴史であり、これは日本力とでもいうべきものである。我が国は、自らの知と徳を高め、新しい価値を創造し、世界に発信する能力を有していると言えよう。
- ② 今こそ、「失われた」とされる 20 年の眠りから目覚め、現今の抱える諸問題に取り組まねばならない。そこでは日本の知恵をもって世界を変える世界標準とする発想・意志を持ち、処方箋を世界に発信する、「日本から世界を変える」との気概を持って行うべきである。
- ③ 多くのテーマが想起される中で、今後地球産業文化懇談会が議論するテーマとしては、4つのイノベーション(シルバー分野、グリーン分野、文化・カルチャー分野、科学技術分野)とグローバル・リスクの5つのテーマが重要と考える。これらのテーマについて、地球規模の視点、未来志向、哲学・倫理・文化・社会等を含む幅広い学際的アプローチから取り組みたい。
- ・高齢化社会への処方箋作り(シルバー分野)や我が国が元々得意とする環境技術の更なる深耕(グリーン分野)は、我が国自身の取り組むべきテーマであるとともに世界からも期待されるテーマである。
  - ・グリーン分野の取り組みは、環境やエネルギー分野でのテクノロジーに限定せず、

世界の気候変動対策の再構築等を含め、地球規模の課題に長期的な視点から発信するべきである。

- ・シルバー分野の取り組みは、たんに医療・介護・社会保障に限定せず、「人間価値」を充実させるライフ・イノベーションの発想と視点が重要である。
- ・文化・カルチャー分野での取り組みは、外来文化の柔軟な受容の中で独自に育んできた伝統文化と先進のクールジャパンをあわせ持つ日本文化の強みを生かし、そのイノベーションを進め、世界に発信していくことが重要であり、これは我が国の貴重なソフトパワー資源となる。
- ・科学技術分野の取り組みは、グリーン、ライフ、カルチャーのイノベーションを支える重要な要素であり、欠かせない駆動力である。

④ イノベーション力・日本力が復活すれば、「課題先進国」といわれる日本の展望は開けると考える。グリーン、ライフ、カルチャー、テクノロジーのイノベーションは、同時に経常収支問題等我が国が抱える経済・社会問題等の解決を意図するものである。

⑤ さらに、世界が今、抱える大きなグローバル・リスクの解決策、対応策の検討にも日本の知恵は重要な役割を果たすことが可能である。グローバル・リスクは、多数の要素が複雑に関係しあい、企業活動・産業活動への影響が大きい。

⑥ 日本の再生、「人間価値」重視の経済システム構築、日本オリジナルのグローバリゼーションとイノベーションを世界に発信することで世界の安定と繁栄に貢献し、新たなグローバリズムの構築を旨すべきである。

これこそ我が国が世界から信頼と敬意を受ける「信望国家づくり」、「知徳創発の国家づくり」の王道である。

⑦ 課題を解決するのは、人間の力であり、個々の人間が最大限に能力を発揮できるようにするための組織のイノベーション、多くの組織が社会の中で最大限に能力を発揮できるようにするための制度のイノベーションという視点も重要である。

(2) まず具体的に取り組むべきテーマ

多くのテーマが想起される中で、地球産業文化懇談会がまず取り組むべき大テーマとしては次のようなものが考えられる。

1) 日本を再生し、日本から世界を変えるイノベーションへの取り組み

- ① 環境・エネルギー分野での地球規模でのグリーン・イノベーション戦略の構築
- ② 先進国のモデルとなりうる、シルバー分野での前向きなソリューションを生み出すライフ・イノベーション戦略の構築
- ③ 日本の伝統的あるいは先進的な総合力（日本力）の強みを生かした文化・カルチャーのイノベーション戦略の構築
- ④ 科学技術分野でのテクノロジー・イノベーション戦略の構築

2) グローバル・リスク・マネジメントへの取り組み

- ① グローバル・リスクへの対応戦略の構築
- ② 企業・産業界と連携してのグローバル・リスク・マネジメントの構築

(3) 今後の取り組みの方向性

地球産業文化懇談会は、地球産業文化研究所を事務局として、これらのテーマを順次取り上げ、その成果を発信していきたい。

以上